

平成 21 年 4 月 30 日現在

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2006～2009

課題番号：18330049

研究課題名 (和文) 職場の生産性決定のマイクロエコノメトリックス

研究課題名 (英文) Microeconometric Analysis on Shop Floor Level Productivity

研究代表者

大竹文雄(OHTAKE FUMIO)

大阪大学・社会経済研究所・教授

研究者番号：50176913

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・応用経済学

キーワード：訓練、生産性、アンケート調査、OJT、offJT

1. 研究計画の概要

二つの製造業大企業の製造ラインの従業員とその管理監督者に対して、訓練、生産性、人的資源管理などに関する継続調査を行いそのデータをもとに、従業員レベルでのOJT、OffJT、自己啓発の量と生産性の関係を明らかにする。

また、インターネットにより高卒者・卒業予定者へ意識調査を行い、高校時代の生活や進路指導、成績などが卒業後の進路や労働条件にどのような影響を与えているかを明らかにする。

2. 研究の進捗状況

自動車組立ラインの組立工、職長に関する同一個人を追跡するアンケート調査は、A社において3回、B社において2回行った。このデータは、従業員の訓練および生産性に関する定量的な追跡調査としては、例をみないものである。

自動車組み立てラインの組立工、職長に対するアンケート調査とそれを利用した計量分析により、同一工場内の組立工の間でも訓練の投資量や頻度に大きな異質性があること、入職後10年以上経過した従業員にも訓練が継続すること、個人の生産性には過去の訓練が有意な効果を持つものの、組全体の生産性への効果は明確ではない、などの知見を得たが、調査は現在も継続中である。

また、日本および中国において高卒労働者に関するアンケート調査については、まだ分析を開始したばかりであるが、日本のデータの分析では、既に多くの既存研究が示すとおり、高卒直後の就職がその後のキャリア形成に長期にわたり影響を持つことがわかるが、

その効果はおよそ10年程度でほぼなくなることがわかる。また高校3年時のデータから、卒業後の正社員就職には、学業成績などいわゆるアカデミックスキルだけでなく、クラブ活動、友人との交流などの課外活動での成果、さらには遅刻欠席、不登校の経験など社会的なスキルの代理変数の効果も非常に大きいことがわかった。この研究も中国のデータの分析、日本と中国の比較研究など、更に研究を続けてゆく。論文は、Trans-Pacific Labor Seminar という国際会議で報告した。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

(理由)

当初の予定では、自動車組立ラインについては、1社のみについて分析を行うことになっていたが、A、Bの2社についての継続調査を実施することができた。2社に関する比較分析により、日本の自動車産業における共通の特徴が明らかにできる。

高卒労働者の教育、訓練、キャリアに関するアンケート調査を日中両国で実施することができた。

4. 今後の研究の推進方策

自動車組立ラインの継続調査については、最終年においても継続する。すでに、蓄積されたデータをもとに、組立ラインにおける訓練の実態、生産性の上昇などに関する研究論文をまとめる。また、高卒労働者に関するアンケート調査をもとに研究論文を完成させる。

5. 代表的な研究成果
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

- ① Ariga, K., and R. Kambayashi
“Employment and Wage Adjustments at Firms under Distress in Japan: An Analysis Based upon a Survey,” forthcoming in *Journal of the Japanese and International Economies*, 2009.
- ② D. Kawaguchi, F. Ohtake "Testing the Morale Theory of Nominal Wage Rigidity," *Industrial and Labor Relations Review*, Vol.61-1, 2007, pp.59-74.
- ③ 黒澤昌子・大竹文雄・有賀健「企業内訓練と人的資源管理策-決定要因とその効果の実証分析」、『経済制度の実証分析と設計』(林文夫編)、第1巻、2007、pp.265-302.

[学会発表] (計 2 件)

- ① 大竹文雄、"Productivity and Job Training: Cases of Japanese Automobile Companies" (with Mamoru Sasaki, Masako Kurosawa, and Kenn Ariga)、The Second Meeting of Trans-Pacific Labor Seminar、2009/3/2、労働政策研究・研修機構
- ② 佐々木勝、"Dispersion in Working Hours," Australian Meeting of the Econometric Society, 2007/7/6, Brisbane, Australia.

[図書] (計 1 件)

- ① 大竹文雄、筑摩書房、『格差と希望』、2008年、248頁。

[その他]

ホームページ

<http://www.iser.osaka-u.ac.jp/~ohtake/>
<http://www.kier.kyoto-u.ac.jp/~ariga/index.htm>
<http://www.iser.osaka-u.ac.jp/~sasaki/>
http://www.grips.ac.jp/jp/files/kurosawa_masako.html